

# 小田原城天守閣の耐震改修等の課題

## 1 概要

小田原城天守閣は、昭和35年（1960）に再建されてから51年が経過している。一般に鉄筋コンクリート製の建物の耐用年数が50～60年とされているので、天守閣についても耐震改修工事を行う必要に迫られている。また、天守閣は、小田原市耐震改修促進計画により平成27年度までに耐震改修を行う施設に位置づけられている。

このため、天守閣の耐震補強工事は喫緊の課題であり、早急にその道筋を立てる必要がある。一方、耐震補強工事を行ったとしても恒久的なものとはならないことや、将来的な課題として、木造での再建の可能性を探っておく必要もある。

## 2 経緯及び現状

平成元年（1989）に耐震診断を行った結果、本建物は壁量が少なく、柱部材の補強も曲げ鉄筋量に比してせん断鉄筋量が少ないため、構造耐震指標値が低いので補強が必要と指摘されている。

その後、観光課では、耐震改修工事の先行事例として、大阪城や富山城の視察を行うとともに、耐震改修工事の工法等の検討を行ってきた経緯にある。平成22年度は、関係職員により『小田原城天守閣耐震改修等検討会』を組織し、課題の整理を行ってきた。

一方、木造による天守閣再建は、これまで文化庁の許可の問題もあり、十分な検討を行っていないが、近年は、全国の復興天守閣の耐震改修や木造での再建などの動きも出ているため、小田原城天守閣の耐震改修等の検討には、こうした動向を見ながら適切な判断を行う必要がある。

## 3 課題

耐震改修工事を行うに当たり、展示ケース改修・展示内容のリニューアル・空調・バリアフリーが課題となる。

国指定史跡内に位置するため、どのような計画であっても文化庁との十分な調整が必要である。

上記の点を検討するために、「小田原城天守閣耐震改修等に関する基礎調査」を専門コンサルタントに委託するとともに、学識経験者・市民等による「小田原城天守閣耐震改修等検討委員会」に検討をお願いする。